

令和8年度 研究・研修全体計画

印西市立牧の原小学校

本校の研究主題

自らの読みを自分の言葉で表現できる子をめざして —読みを広げる単元学習—

1 研究主題設定の理由

(1) 学習指導要領から

現行の学習指導要領国語編では、「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」を育成することが目標とされている。この「言葉による見方・考え方」とは、児童が学習の中で言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることである。「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」とは、国語で表現された内容や事柄を正確に理解する資質・能力、国語を使って内容や事柄を適切に表現する資質・能力、国語を適切に使う資質・能力を含んだものである。また、言語能力を育成する中心的な役割を担う国語科においては、言語活動を通して資質・能力を育成すると明記されている。

つまり、国語科では、教科書の文章を正確に理解し、伝え合う力を高め、思考力や想像力を育むことが求められているのである。そこで、本校では、学習指導要領の指導事項を精緻に押さえた言語活動に取り組むことで、児童が自らの読みを深め、自分の言葉で進んで表現することができると考えた。また、生涯にわたって社会を生き抜くための確かな言語能力を育成するために、本研究主題を設定した。

(2) 学校教育目標から

心豊かで、心身ともにたくましい子どもの育成 —愛・希望・勇気を育む—

本校の学校教育目標である『心豊かで、心身ともにたくましい子どもの育成 —愛・希望・勇気を育む—』を中心に3つの具体的目標を掲げている。その中の1つの、『(2) 進んで学び、よく考える子』を育成するとある。見通しをもって『進んで学び』、自らの学びを調整しながら粘り強く努力する力を育んでいく。また、自分の考えを他者と共有し合い、『よく考える子』を目指す。

国語科の学習においては、単元のゴール（言語活動）を明確に示し、児童が進んで本（情報）に手を伸ばし、自らの考えを読みで広げ、読みで得た語彙を使って、自分の考えを表現できる児童を目指す。

(3) 学校・児童の実態から

本校は平成27年の開校から創立11周年を迎えた。共働きの家庭が多く、学校教育への関心は高い地域である。開校当初61名であった児童数は、10年間で1,033名へと急増し、学級数も6学級から36学級へと大幅に拡大した。この急激な規模拡大に伴い、教職員数も14名から72名へと増員となった。昨年度までの研究は、複数の教科で取り組んでいたが、今年度は、みんなで国語科の「読むこと」の力を付けていきたいと考えている。大人数ではあるが、授業の在り方をみんなで共有し、取り組むことが大切であると考えている。

本校の児童は、明るく元気で、欠席者も少ない。また、意欲的に学習に取り組んでいる児童が多い。R7年度学力調査の結果では、「読むこと」においてほとんどの学年において、全国平均を上回る

結果となった。しかし、学力調査のアンケート結果からは、学校の授業に対する関心・意欲・態度は比較的低い結果となっていた。この結果より、児童が「なんとなく」文章を読めてはいるものの、授業を通して、主体的に単元のゴールに向かって読みを進める自覚が足りなかったり、何が身についたか（指導事項）が明確になっていなかったりすることが考えられる。

国の方針である「個別最適な学び」の実現には、児童が自らの学習状況を把握し、粘り強く取り組む中で「学習を調整する力」を育むことが求められている。また、北総地区の重点施策である「教科書の文章を正確に理解する力」の育成は、単なる情報の受容に留まらず、自分の考えを理由や根拠と結び付けて説明する力を土台としている。

児童が「なんとなくの読み」を脱し、文章の言葉（叙述）を根拠に自分はこう受け止めた」という納得感を伴う「自らの読み」を確立する必要がある。そこで、本校では、単元を貫いた言語活動を通して「学び方」を明確にし、自らの考えを読みで広げ、自分の考えを表現できる児童を育成していきたいと考え、「自らの読みを自分の言葉で表現できる子をめざして」を研究主題に設定した。

2 研究主題について

自らの読みとは

- ・自分の体験や、これまでに読んだ本、知っている知識と重ね合わせ、自分にしかできない解釈をすること。
- ・友達との対話や読み返しを通じて、自分の考えを深めたり修正したりすること。
- ・その物語や説明文を読み、自ら本に手を伸ばし、自分にとって「面白かった」「心に残った」と思える価値を、自分の感覚で捉えて言語活動ができること。
- ・文章の言葉（叙述）を根拠として「自分はこう受け止めた」という納得感をもっていること。

自分の言葉で表現できる子とは

- ・「おもしろかった」「悲しかった」という感情だけでなく、文章の叙述からどう感じたのか、自分の経験とどう結びついたのかという「理由」（根拠）を添えられること。
- ・学んだ語彙を活用し、今の自分にできる精一杯の表現を使って、自分の考えを表現しようとしていること。
- ・既習した言葉を巧みに使って、相手にわかりやすく伝えようとする事。
- ・読みを活かした言語活動を通して、自分の考えを再構築し、交流・共有することで学びを深めること。

3 研究主題に迫る視点

☆魅力的な単元のゴールを設定する☆

- ・単元で取り上げる指導事項と言語活動の一致。
- ・教師による言語活動のモデル作成。
- ・必然的に読みに向かい、楽しく学習したいと思えるゴールの設定。
- ・相手意識の明確化。
- ・読みを広げるための司書による読み聞かせや並行読書、情報活用。